

●本剤の成分はストレプトマイシン硫酸塩で、タンパク合成阻害により、野菜、果樹などの細菌性病害に優れた効果を発揮します。

適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
もも	せん孔細菌病	1000~2000倍	200~700ℓ/10a	収穫60日前まで	2回以内	散布	2回以内
はくさい	軟腐病			収穫14日前まで	3回以内		3回以内
たまねぎ		腐敗病	1000倍	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布
こんにゃく	収穫30日前まで				6回以内	6回以内 (種いもへの処理は1回以内)	
キャベツ	黒腐病	2000倍		収穫14日前まで	2回以内		2回以内
キウイフルーツ	かいよう病	1000倍 (200ppm)	-	収穫後から 落葉前まで	1回	樹幹注入	4回以内 (樹幹注入は1回以内)
ばれいしょ	軟腐病	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内 (種いもへの処理は1回以内)
	そうか病	10倍	200~300ml/ 種いも100kg	植付前	1回	種いも散布	
		100倍	-			5~10秒間 種いも浸漬	
	黒あし病	60~100倍	2.5~3ℓ/ 種いも100kg			種いも散布	
		10倍	300ml/ 種いも100kg			5~10秒間 種いも浸漬	
		100倍	-			種いも散布	
3ℓ/ 種いも100kg							

効果・薬害等の注意事項

- 一般的注意事項
 - 石灰硫黄合剤、ボルドー液及び石灰、タルク、ベントナイトなどの吸着性増量剤を含有する薬剤との混用は避けて下さい。
 - 収穫物には使用しないで下さい。
 - 医薬として用いないで下さい。
 - 殺菌剤として散布して使用する場合
 - 本剤の散布によりクロロシス(黄化現象)を生じることがあるので注意して下さい。特にはくさい、キャベツについては以下の事項について厳守して下さい。
 - はくさいについては高温時又は幼苗期の連続散布は避けて下さい。
 - キャベツについては高温時の連続散布は避けて下さい。
 - 本剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った事例があるので、過度の連用を避け、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用して下さい。
 - キウイフルーツのかいよう病に対して樹幹注入する場合
 - 本法による防除を初めて実施する場合は、必ず病害虫防除所等関係機関の指導を受けて下さい。
 - 主幹が樹下で分岐している樹では効果が不安定であり、また、激しい薬害を生ずるので使用を避けて下さい。なお、1本仕立ての主幹の樹であっても薬害を生ずる場合があるので留意して下さい。
 - 本処理を行う場合、主幹の途中から分岐している小枝は夏季せん定時に切除しておいて下さい。
 - 使用量は樹上の樹冠面積10㎡に対し3ℓの注入量を基本に樹冠面積が10㎡増すごとに1ℓの割合で注入量を増加させて下さい。
 - 処理方法
 - イ. 主幹の地際から高さ10~30cm程度の部位に、ドリルを用いて直径5mmの注入孔を水平にあけて下さい。孔は幹の中心部を貫通させ、深さはなるべく反対側の皮層部の際までとして下さい。
 - ロ. 孔内の木屑をかきだして除き、注入孔の入口をゴム栓で密封して下さい。
 - ハ. 本剤の所定量を注入器具セットの薬液容器に入れ、棚面に吊し、薬液容器の下部にあるゴム栓に通気針を刺して下さい。
- 二. 薬液が細管の先端に連結している注射針の先に達したら、細管内の気泡を抜き、幹の注入孔を封じているゴム栓に針を刺し込んで下さい。針はゴム栓の下方から上方へ上向きに刺し、細管の針に連結する部分をやや弛ませて気泡が抜けやすくして下さい。
- ホ. 薬液の注入に要する時間は、通常2ℓ当り2時間30分前後です。但し、夕方になると急速に薬液を吸入する力が低下するので、早朝から処理を開始し、その日の内に所定量の薬液を吸引させて下さい。
- ヘ. 注入が終了したら器具は回収して下さい。
- ト. 注入孔を密封しているゴム栓は梅雨明け後にははずして下さい。できれば塗布剤を塗リカサの発達を促して注入孔をふさいで下さい。
- チ. 新たな感染などにより再処理が必要な場合には、前年の注入孔を避け、高さや位置を変えて下さい。

- ラベルをよく読んで下さい。
- ラベルの記載以外には使用しないで下さい。
- 小児の手の届く所には置かないで下さい。
- 使用後の空袋は、圃場などに放置せず、適切に処理して下さい。
- 防除日誌をつけましょう。

お問い合わせ/ご注文は

ばれいしょ・たまねぎ 軟腐病の防除に!

液剤タイプだから
使いやすい!!
そして低コスト!



殺菌剤分類 25

お得な
大型ボトル
5ℓ



農林水産省登録
第13823号

殺菌剤

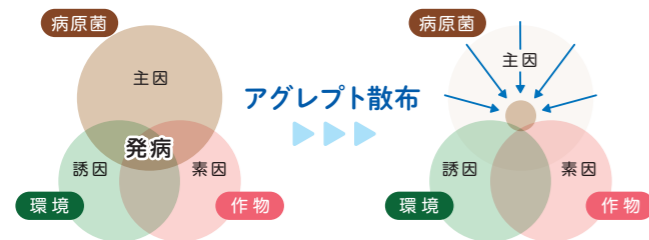
ストレプトマイシン液剤

アグレプト液剤

防除の基本は菌密度を一定以下に保つこと アグレプトで軟腐病菌の密度を減らしましょう!

アグレプトの殺菌効果

アグレプトの成分であるストレプトマイシンは病原菌そのものを殺菌する抗生物質です。
ストレプトマイシンは発病の主因となる軟腐病菌自体を減らし、軟腐病菌の密度を低く抑えます。



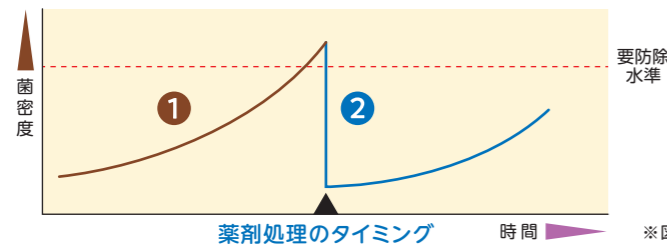
アグレプトは病原菌(主因)そのものを
「減らす」ことが可能!!

植物の病気の発生メカニズム

植物の病気は、病気にかかる体質をもった作物(素因)、それを侵す病原菌(主因)、病気の発生に好適な環境条件(誘因)の3つの要因がそろい、重なり合ったときに初めて起こります。

アグレプトを活用した軟腐病防除の考え方

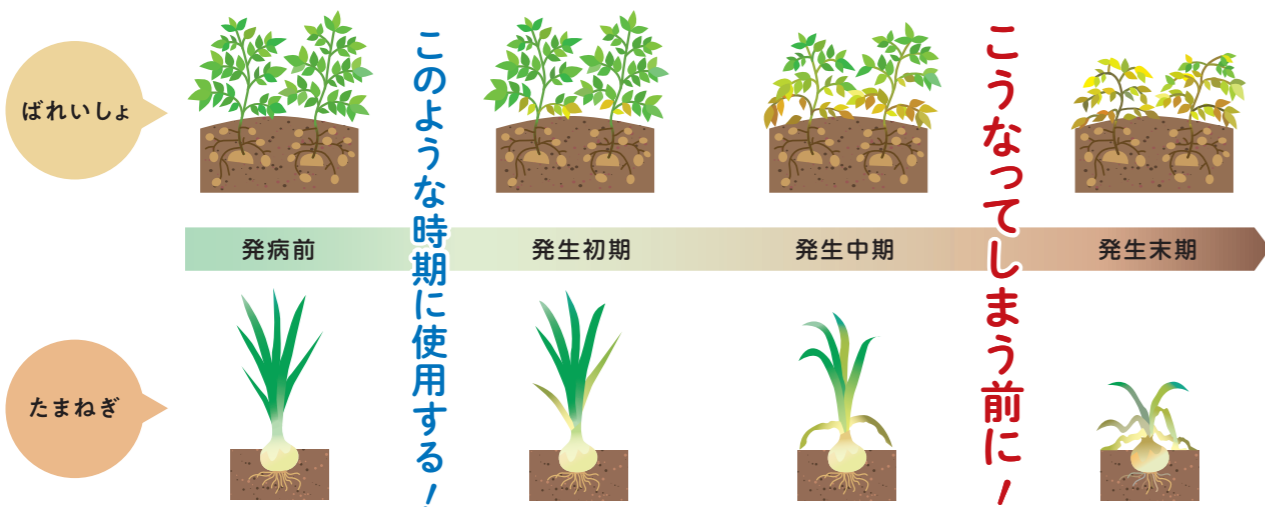
- ① 気象条件(高温多湿)などにより軟腐病菌の密度が上昇してきています。
- ② アグレプトで殺菌することで、菌密度が下がり、軟腐病の感染圧が小さくなります。



アグレプトで病原菌を減らし、
感染圧を
「小さくする」ことが重要!!

※図はイメージであり、正確な菌密度を示している訳ではありません。

アグレプトの散布タイミング

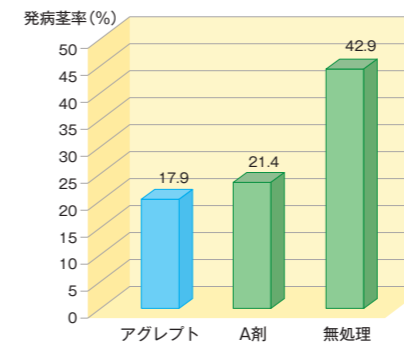


風雨等による傷口から軟腐病菌は侵入し発病します。増殖力が高く、一気に広がる危険性がありますので、**発病前～発生初期の段階**で、アグレプトを散布するのが有効です。特に降雨前後が有効です。

委託試験事例

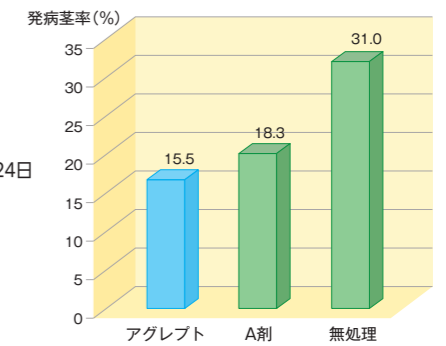
2001年 北海道立道南農業試験場

作物名:ばれいしょ
品種:男爵薯
発生状況:甚発生
植付日:4月27日
散布日:7月4、13、19日
調査:7月24日に
発病率を調査



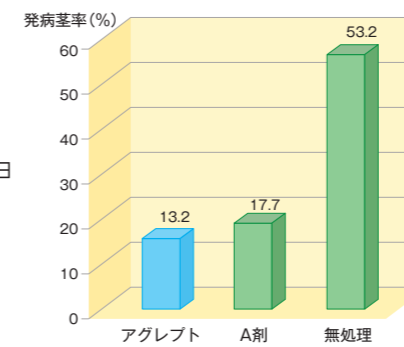
2001年 (社)北海道植物防疫協会

作物名:ばれいしょ
品種:メークイン
発生状況:甚発生
植付日:5月2日
散布日:7月6、11、17、24日
調査:7月26日に
発病率を調査



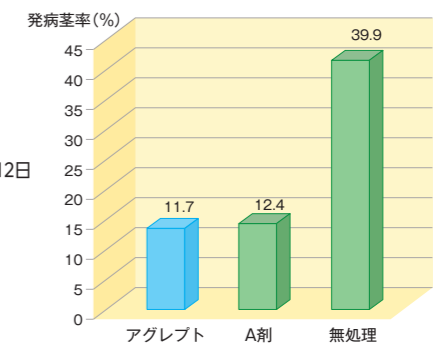
2002年 北海道立中央農業試験場

作物名:ばれいしょ
品種:メークイン
発生状況:甚発生
植付日:5月8日
散布日:7月13、19、26日
調査:7月30日に
発病率を調査



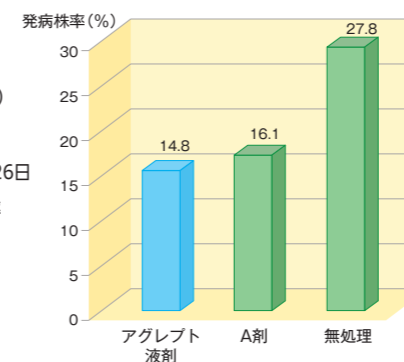
2002年 北海道立道南試験場

作物名:ばれいしょ
品種:メークイン
発生状況:甚発生
植付日:4月24日
散布日:6月28、7月5、12日
調査:7月19日に
発病率を調査



2002年 北海道立中央農業試験場

作物名:たまねぎ
品種:天心
発生状況:多発生(接種)
定植日:5月7日
散布日:7月10、13、19、26日
調査:8月1日に発病率を調査



ポイント

アグレプトは道内各地で試験が実施され、
ばれいしょ・たまねぎの軟腐病に対して
高い防除効果を示すことが確認されています。